

## 忘れてはいけないことを 思い出させてくれるのが農林業

人間の社会は、分業することによって発展してきましたが、でも、やっぱり忘れてはいけないこともあるのだと思うのです。

生き物を飼うって、そう、農林業って、そんなことを思い出させてくれるよう思います。人間も自然の中の一つの生き物に過ぎないことを。回りのすべての命のつながりの中で人間も生きているのだということを。

今の社会は、ともすれば、人間は万能と思いがちです。何でもできると。遺伝子を組み換えて新しい命まで作り出してしまう。人間が制御できない原子力まで作り出してしまう。・・・困ったことです。

## 地域活動もいろいろと 「子どもにふるさとをつくってやりたい」

地域に根付かせてもらって、いろんな活動にも参加させて頂きました。

祭り、消防団、PTA、子供会、・・・私、もともと嫌いな方じゃないんでホント楽しくさせて頂きました。消防の操法大会などは、8年しか消防にいなかったのに、のべ3回も。(笑)

今でもいろんなことさせてもらっています。

私、農業がしたいという思いももちろんですが、地域に根付いたこのような暮らし方がしたいという思いも大きかったです。そういう暮らし方がとても大事だと思っています。

私は、明石で、父の勤めていた会社の社宅を何度も引っ越ししながら大きくなりました。だから、私にはふるさとはありません。高校の時、友人の家に遊びに行って、地元のおじさんがその友人に「よっ」って声をかけるのが、ただそれだけのことなのですが、とてもうらやましかった。

そんなふるさとを自分の子どもに作ってやりたい。ずっと変わらない人たちの社会がそこにはある。どこに誰が住んでいるのかみんな知ってる。それが人の社会の原点なのだと思います。

## 人間の基本は『助け合い』 この素晴らしい地域を守りましょう !!

こんな素晴らしい地域、宍粟!! 都会もいいところはいっぱいありますが、ここには都会にはない素晴らしいものがそれ以上に山ほどあります。

今、社会は少し欲に目がくらみ力がラクに入る道を進もうとしているように思いますが、その結果、人間の一番基本だった「助け合いの暮らし」を失おうとしているのではないでしょうか。

人間は助け合うからこそ、森の木の上から野獣たちの住む平原へと降りて来れました。人間の一番基礎の

DNAは『助け合い』です。「競争」「弱肉強食」「自己責任」ではありません。

そんな助け合いの社会がこの宍粟ではきっとできる。いや、皆さんすでにされています。その良さをもっともっと自覚して自信と誇りを持って、さらに進めていこうではありませんか。

こんな素晴らしい『田舎』を廃れさせてしまうことはとんでもないことです。日本も終わりです。何とか次世代に、より良い地域社会をつないでいけるよう、みんなで知恵を出しましょう。『田舎』が元気になる道をみんなで考えましょう。

頑張ります!! 頑張りましょう!!

ご意見どうぞお寄せ下さい!!

みんなでこの通信を作ってください。

みんなで町を作りましょう。

(もう少し具体的なことは次号に書かせて頂きます)



## 今井和夫 プロフィール

昭和33年(1958年)5月5日生まれ

兵庫県明石市出身

昭和52年	兵庫県立加古川東高校卒業
昭和56年	慶應義塾大学経済学部卒業
昭和57年~63年	大阪市立中学校教諭
平成元年	宍粟市千種町中島の町営住宅に転居
平成2年	千種町岩野辺に1年かけて セルフビルドで家を造り転居 平飼い自然養鶏を始める。 「いまい農場」開設 地域の皆様に支えられ現在に至る

## 主な活動歴

平成5年~13年	千種町岩野辺消防団
平成5年~	空手教室「千空会」主宰
平成5年~	岩野辺獅子舞保存会会員
平成6年~10年	岩野辺子ども文庫開設
平成10年~15年	ミニコミ誌「グラフ岩野辺」主宰
平成12年	宍粟郡連合PTA会長
平成14年	千種町学校給食検討委員会委員長
平成23年~	千種町野菜生産組合会長
平成24年~26年	全国自然養鶏会会長
平成26年~	千種町町づくり推進委員会広報部長 広報誌「ええとこ通信」発行に携わる